

平成27年度 幼稚園自己評価

重点目標	具体的な取り組み		評価と達成状況	来年度に向けて
幼小連携の充実	園内研究の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・幼小連携、接続の視点で幼稚園の学びを捉える ・研究の成果を外部に発信する 	<ul style="list-style-type: none"> ・「幼児期の教育における学びを探る～石川県内の保幼小連携の実態と課題(アンケート調査の結果から)～」を研究主題とする『研究紀要第61集』をまとめ、全国の幼稚園教諭、保育士などを対象に、6月12日に第61回幼児教育研究会を開催し、公開保育、研究報告を行った。11月14日には第15回保育を語る会を実施し、公開保育を行い、3歳児、4歳児、5歳児各年齢別分科会その他、特別支援、幼小連携の5つの分科会を設け、幼児期の教育に係る意見交換を行った ・学校教育学類・附属学校園研究推進委員会の全体会(8月)で園の研究を他校種や大学の教員に発信した ・研究テーマを「幼児期における学びを探る～生じた課題に対し、解決に向けて主体的・協同的に学ぶ姿～(アクティブ・ラーニングの視点から)」とし、今日的課題となっている『アクティブ・ラーニング』をキーワードに研究を進めてきた ・園内研究会においては大学教員から専門的な観点から指導助言をいただき、事例研究を進めてきた 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の研究の成果を研究紀要にまとめ、来年度6月10日の幼児教育研究会で報告する ・来年度も引き続き、文科省等が発信する幼児教育の動向に注目していく。また、大学教員をまじえた研究会を行い、専門的な観点から指導助言をいただき研究を進めていく
	連携・交流活動	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校と交流活動を行う ・幼小連携、交流活動を行うための組織づくりをする 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育学類・附属学校園研究推進委員会 附属学校園連携小委員会 幼小連携部会において、保育・授業交流や教員同士の交流の重要性を確認した ・小学校1年1組と年長つき組が交流・連携を行った 5/14、6/17、7/15、9/1、2、4、7、8、10、14、24、10/21、29、11/6、9、10、11、12、14、18、20、24の計22回 ・小学校1年2組、3組と年長児ほし組が弁当交流を行った(9/3、8) ・小学校2年1組と年中さくら組交流を行った(11/4、5) ・小学校2年1組と年中すみれ組さくら組が交流を行った(12/9) ・小学校3年2組と年長 学校探検を行った(11/6) ・小学校3年1組と年中すみれ組、年少うさぎ組が紙芝居の読み聞かせ交流を行った(11/7) 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育学類・附属学校園研究推進委員会幼小連携部会を中心に交流活動を充実することができるように、話し合いの場を設けたり、お互いの教育を伝え合ったりすることができるようにする ・来年度も引き続き、小学校との交流を進めていく
	外部研修会へ参加	<ul style="list-style-type: none"> ・金沢市小教研(生活科)へ参加する ・保幼小連携に関する講演、セミナーなどに参加する 	<ul style="list-style-type: none"> ・金沢市小教研(生活科)に参加し、粟ヶ崎小学校1年生の授業研に参加した ・石川県生活科総合部会に職員全員が参加した(文部科学省初等中等教育局田村視学官の講演) ・石川県教育センターの幼小の研修会に全職員が参加した(文部科学省初等中等教育局田村視学官の講演) ・公益社団法人全国幼児教育研究協会主催の第64回全国幼児教育研究大会北海道大会の保幼小分科会に研修部が参加した ・小松市保幼小の研修会に参加した 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修会等で学んだことを園内研究に活かしていく ・来年度も引き続き、研修会に積極的に参加していく ・来年度6月10日の幼児教育研究会において文部科学省初等中等教育局田村視学官から評価をいただく ・公益社団法人全国幼児教育研究協会主催の第65回全国幼児教育研究大会奈良大会で幼小連携をテーマに研究発表をする

自然体験の充実	金沢大学角間の里山での自然体験	<ul style="list-style-type: none"> ・角間の里山での活動を考える ・カリキュラムに位置づける ・活動支援者とのネットワークづくりをする 	<ul style="list-style-type: none"> ・年長児が里山での活動を年間を通して8回行った。1年間の里山での申請書類、活動案、活動の記録をまとめた ・いしかわ自然学校のインストラクター、農業従事者、角間の里山メイトの方々とネットワークを構築し、活動を進めてきた。また、来年度の計画も作成した ・園のもちつきに里山メイトの方々のご協力を得ることができた。5歳児は里山で育てたもち米を使い、もちつきを行った 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの里山自然活動の記録をもとに米づくりに関連させた活動計画を作成していく ・活動支援者とのネットワークづくりを引き続き模索していく
	園庭などの身近な自然物とのかかわりの充実	<ul style="list-style-type: none"> ・園庭の自然物を活用する(畑、プランターの活用) ・カリキュラムの見直しを行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・3歳児は4月から自然物が身近になるよう、環境設定を行ってきた。身近な生き物、植物に興味をもちかかわる幼児が増えた。ヒヤシンスなどの球根の水栽培を行うなど、生長に興味をもつ幼児も増えてきた ・4歳児はプランターや畑を利用し、食べられるものを育てた。カラスなどに食べられないように案山子をつくるなど、自分達の苗を守ろうとする気持ちをもつ姿も見られた。また、5歳児が育てていたイチゴの苗を引き継ぎ、育てることを楽しみにしている ・4歳児、5歳児は畑等で収穫した野菜などを食べるなど、食育活動ともつなげるようにした ・5歳児は2年前に里山で拾ったどんぐりが苗木に育ったものを園にもってきて植えた。また、保育活動が充実するように遊びで使うことができる植物や生き物が集まってくる植物、収穫する喜びを味わうことができるように食べることができる植物を育ててきた ・5歳児ほしくみは『柿とりプロジェクト』と題し、前庭にある柿の木の実を自分達で工夫してとる活動に取り組んだ 	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度も引き続き、園内の環境(畑、プランターなど)を活用していく。また、保育者自身が自然物に興味関心をもち、保育活動に取り入れていくことができる環境を計画していく ・身近な自然物に興味をもつことができるように、食べることができる植物を育てることは有意義であることがわかった。来年度も計画していく